

《4月の番組ガイド》

鳥取市広報番組

『こんにちは鳥取市です』【放送】毎週金・土

鳥取市の施策や事業の取り組み状況、各種行事、お知らせを紹介します。

【話題・特集】

- ▷「砂の美術館」第7期展示 砂で世界旅行・ロシア編オープン
- ▷もちがせ流しびな行事
- ▷春の砂丘一斉清掃 など



【砂の美術館 第6期展示】



昨年は木村キャスターがもちがせ流しびな行事をリポート!



静止画文字情報

『鳥取市からのお知らせ』【放送】毎週水・木・金・土

イベント、募集、相談などの各種お知らせを、文字画面と音声でご案内しますで再放送します。



いなばぴよんぴよんネット 自主制作番組

農業番組『いなばアグリタイム』【放送】毎週水・木

特産二十世紀梨の人工交配作業や稲作の準備が始まった様子など農作業のタイムリーな話題をお送りします。

地域情報番組『とっとりウオーキング』【放送】毎週日・月

入学式の様子や、市内各地の春のまつりなどを紹介します。

生活情報番組『ぴよんぴよんワイド』【放送】毎週火

子育てや健康をテーマに、暮らしに役立つ情報や話題をお届けします。

手話番組『手話でコミュニケーション』【放送】毎週日・月

ニュースやお知らせを手話や字幕で紹介。また、あいさつなど初歩の手話を1年間にわたり紹介します。

122ch (第2放送)

週替わりでリクエスト番組やイベント番組を再放送。また、テレビでしゃんしゃん体操を毎日放送中!

番組の放送時間や内容はホームページまたはデジタル放送の電子番組表(EPG)をご覧ください

情報をお寄せください!

いなばぴよんぴよんネット ☎ 0857-22-6111
※放送予定は予告なく変更することがあります。
番組の放送時間は、ホームページでも紹介しています。
http://www.inabapyonpyon.net



日本移民 100 周年記念式典で 230 人のしゃんしゃん傘踊りを披露

しゃんしゃん傘踊りを日本の伝統芸能へ
平成20年6月にブラジルのサンパウロ市で日本移民100周年を記念した式典が開催されました。約4万人の観衆が集まる中披露された郷土芸能は、和太鼓、琉球舞踊などとともに、しゃんしゃん傘踊りで、鳥取から駆けつけた知事・市長

等8人の踊り子を含む230人のブラジル鳥取県人会連が、サンパウロの夜空に壮大なしゃんしゃん傘の花を咲かせました。そして、翌平成21年の第45回鳥取しゃんしゃん祭に、ブラジル鳥取県人会連から11人が招待され、ブラジル仕込みのしゃんしゃん傘踊りを、見事に凱旋させました。これらの成功の背景には、海を渡った約800本のしゃんしゃん傘が長年活用され、しゃんしゃん傘踊りが、ブラジル日系人社会に親しみをもって受け

今年第50回を迎える鳥取しゃんしゃん祭
「今後は、しゃんしゃん傘を修復・修繕する技術の伝習と、部品や材料を供給する拠

点をブラジルにつくりたい。節目の年、川上さんは、長年の使用で痛んだしゃんしゃん傘を心配し、新たな挑戦に意欲を見せます。鳥取ブラジル友好協会の会員は現在58人。会員のブラジルに対する熱い思いを一つにまとめ、今後も市民交流の輪を広げていきます。皆さんの思いが実を結び、海を渡ったしゃんしゃん傘踊りが、日本を代表する郷土芸能として、さらなる飛躍を見せるのも、そう遠くない日のことでしょう。



会長 土井 康 稔 さん 事務局長 川上 信 温 さん

「ブラジルに移住された皆さんは、大変な苦労をされて今日があります。しゃんしゃん傘踊りが、皆さんの郷愁や鳥取への思いを呼び起こす。」



ブラジル鳥取県人会連のしゃんしゃん傘踊り

「傘を送るのはとても大変でした。しかし、鳥取大火の時には多額の義援金をいただいたので、恩返しの意味でもぜひ実現させたかった」と当時を振り返

一方、鳥取ブラジル友好協会は、ブラジルとの市民交流を支援する民間組織として平成7年に発足。鳥取県や鳥取市が行う交流事業で歓迎会を開催するなど、市民交流のお手伝いをしてきました。

シリーズ 元気です

145

ブラジルで開花したしゃんしゃん傘踊り

鳥取ブラジル友好協会

海を渡ったしゃんしゃん傘踊り
地球の反対側にある南米ブラジルで、しゃんしゃん傘踊りが親しまれています。これは、戦前戦後を通じてブラジルに移住した鳥取県出身者で作るブラジル鳥取県人会と、市民などで作る鳥取ブラジル友好協会等の皆さんが、故郷の伝統芸能を現地で普及させようと尽力されているからです。ブラジルでしゃんしゃん傘踊りが知られるようになったのは、昭和40年代に鳥取県が始めた農業青年の海外派遣事業で、団員がしゃんしゃん傘踊りを披露したことがきっかけといわれています。その後、本格的にしゃんしゃん傘踊りを覚えたいという機運が、ブラジル鳥取県人会を中心に盛り上がったそうです。

鳥取大火の時の恩返し
平成8年、ブラジル鳥取県人会の役員が来鳥し、ブラジルで平成10年に開催の移民90周年を記念した日本祭で、しゃんしゃん傘踊りを披露するため、傘を寄贈してもらいたいと要請されました。70周年の時は山形の花笠音頭が、80周年の時は東京音頭が披露されたそう、鳥取県と鳥取市は、郷土芸能をブラジルで披露する絶好の機会と捉え、しゃんしゃん傘500本を送ることを決定しました。

中堅リーダーの市長表敬 (2014.2.4)
「傘を送るのはとても大変でした。しかし、鳥取大火の時には多額の義援金をいただいたので、恩返しの意味でもぜひ実現させたかった」と当時を振り返